

裏表紙「こんにちは」に
表紙に関するインタビューがあります

大月町 議会だよ!!

令和8年8月1日発行 高知県大月町議会

第125号

6月定例会

黒潮が育む サンゴの物語



黒潮生物研究所

めざき たくま
目崎拓真所長

インタビュー

父の背中と、沖縄の海。サンゴ研究者が歩んだ道

目崎拓真所長の父は、琉球大学でサンゴ礁地形を研究する研究者だった。週末になると父の調査に連れられ、幼い目崎少年は沖縄の海でひたすら泳ぎ回った。「気づいたらサンゴに囲まれていた」という少年時代が、今日の研究の原点だ。

岩礁の形や潮の流れを読みながら黙々とデータを取る父の背中を、幼い目崎少年はただ追いかけた。言葉では教わらなかったが、「海を観察すること」の面白さはその背中から受け継いだと、所長は振り返る。

大学院在学中、高知県大月町に開設されたばかりの黒潮生物研究所の初代所長と出会い、声をかけられた。一度は断ったが最終的に大学院を休学してこの地へ。そこで見た「ギリギリの環境で生き延びるサンゴ」に心を奪われた。

「高緯度のサンゴの方が面白い」。その直感が、目崎所長を大月町に引き留め、今年で18年目を迎える。

「大月の海は、世界でここだけ」黒潮が育む奇跡のサンゴの海

四国西南端に位置する大月町の海には、大きな秘密がある。黒潮という温かな海流のおかげで、サンゴ礁がないにもかかわらず約140種ものサンゴが生息している。「サンゴ礁のない海域としては、世界最大級のサンゴ多様性を誇るエリアです」と目崎所長は語る。

同じ緯度でこれほど多様なサンゴが見られる場所は、世界でもほぼない。研究者が憧れる「奇跡の海」が、大月町の足元に広がっているのだ。

しかし2024年夏、海水温の急上昇によりサンゴが大規模に白化した。動けないサンゴは環境変動を体全体で受け止める生き物。「25年前には誰も想像しなかったことが起きている」――研究所は今も、変わりゆく海を黙々と記録し続けている。

南の沖縄から連続してサンゴの分布が途切れることなく続く様子は、世界でもほかに類を見ない光景だ。



黒潮が育むサンゴたち

創立25周年。大月から世界へ、研究所の次の25年

2025年9月、黒潮生物研究所は大月町での創立25周年を迎える。24時間テレビへの出演、世界各国からのインターンシップ希望、ヨーロッパの投資家との国際プロジェクト―研究所は今、世界とつながる拠点へと進化しつつある。

研究所は創立以来、四国沿岸のサンゴ分布を継続的に記録してきた。その長期データは、海の変化を読み解く貴重な「ものさし」となっている。モニタリングを続けるなかで明らかになったのは、近年サンゴの分布域が着実に北へ広がっているという事実だ。気候変動の影響が、大月の海にも確実に現れ始めている。

地域との結びつきも深めている。大月小学校・中学校での出前授業では、クラゲや海の生き物を実際に持参し、子どもたちが目を輝かせる場面も多い。

「大月の子どもたちは自然に触れる素養が高い」

と所長は語る。海と共に育った感性を、次の世代へとつないでいくことも研究所の大切な使命だ。

「高緯度サンゴ群集の研究や活動拠点になること、そして多くの人に海と関わってもらうこと」―それこそが目崎所長が描く、次の25年の夢だ。

大月の海から生まれた研究が、地域を、そして世界をつなぐ架け橋となる日を目指して研究所は今日も歩み続けている

取材を終えて ― 記者より

取材を通じ、目崎所長の歩みに触れながら、ふと大月町の子どもの姿が重なった。

幼いころから父の調査に付き添い、沖縄の海を泳ぎ回った少年が、世界に認められる研究者になった。大月町で育つ子どもたちもまた、同じように恵まれた海がそばにある環境の中に生きている。目崎所長自身も「大月の子どもたちは自然に触れる素養が高い」と太鼓判を押す。

この豊かな海で遊び、感じ、学んだ子どもたちの中から、いつかまた世界に羽ばたく研究者や、この海を愛し守る人が生まれてくるかもしれない。そんな未来への期待を胸に、大月町の海は今日も静かにまた力強く、次の世代を育んでいる。

米谷 勝市

未来へつなぐ 議会基本条例の制定に向けて

●はじめに

現在、大月町議会では「議会基本条例」の制定に向けた検討を進めています。この条例は、議会の役割や議員の責務、住民の皆様との関わり方など、議会運営の基本的な考え方を明文化するものであり、議会の憲法とも言われています。

●どうして条例が必要なのか

人口減少や少子高齢化など、町を取り巻く環境が大きく変化する中、議会にはこれまで以上に政策を論議し、行政を適切に監視しながら、住民の皆様の声を町政へ反映していくことが求められています。だからこそ、議会は何を使命とし、どのような姿勢で町政に向き合うのかという基本的な考え方を、今後誰が議員になっても議会の共通ルールとして明文化することが必要だと考えています。

●どのように進めているのか

現在は、議員間で条例案の条文を一つひとつ丁寧に協議するとともに、他自治体の先進事例も参考にしながら、大月町議会にふさわしい内容となるよう検討を重ねています。また、議会の情報公開の充実や政策立案機能の強化、議員の倫理や資質向上などについても議論を進めています。

制定する上で大切にすること

- | | |
|---------------|------------------|
| ① 住民との関係性を明確化 | ② 議会の機能強化と自立性の確保 |
| ③ 政策形成過程への関与 | ④ 倫理・規範の明確化 |
| ⑤ 地域特性の反映 | |



6月定例会

会期：6月11日～16日

補正予算

全員賛成

◆一般会計補正予算(令和7年度)【専決処分】

- 1699万8千円を減額。ふるさと応援寄附金の確定による財源調整など。

◆特別養護老人ホーム特別会計補正予算(令和8年度)

- 95万7千円を増額。温冷カートリース料の追加。

◆一般会計補正予算(令和8年度)

項目	補正額	主な補正内容
総務費	3000万円	公共交通維持対策(2970万円)
民生費	151万円	社協補助金(199万円)
衛生費	350万円	ゴミ袋購入費(350万円)
農林水産業費	1038万円	水田農業機械導入補助金(966万円)
商工費	1092万円	ふるさと納税支援業務委託料(8981万円)
教育費	102万円	給食材料費(102万円)

一般会計補正予算の質疑

問 水田農業機械導入支援事業の本人負担は。

答 事業費の2分1が自己負担。

問 水田農業機械導入支援事業の事業対象は。

答 米生産体制の確立が目的の事業で、機械の更新購入等が対象。

問 ふるさと納税支援業務委託の契約は単年度更新か。

答 まだ未定だが、現在の業者とは1年契約で更新している。

陳情

◆釣り漁場におけるクロマグロ対策について

- 産業建設常任委員会へ付託

条例

全員賛成

◆大月町税条例の一部を改正する条例【専決処分】

- 地方税法等の改正による、軽自動車税環境性能割の廃止等の改正

◆大月町国民健康保険税条例の一部を改正する条例【専決処分】

- 地方税法等の改正による、課税限度額や軽減所得判定基準の見直し、子ども子育て支援納付金の新設等の改正。

◆大月町介護保険条例の一部を改正する条例【専決処分】

- 税制改正による特例減免等の改正。

契約

全員賛成

◆緊自債第1号 普通河川田代川(馬路1号橋)河川改修工事 請負契約の変更【専決処分】

- 変更後契約額： 1億4372万6千円
- 変更額(増)： 414万7千円

◆水第7号 大月町簡易水道施設(姫ノ井工区・春遠工区)整備工事 請負契約の締結

- 契約金額：6655万円
- 相手方：谷口建設株式会社(大月町弘見1803番地)
- 契約期間：契約発効の日から令和9年2月6日

人事案件

賛成多数

◆大月町農業委員会委員の少なくとも4分の1を認定農業者等 又はこれに準ずる者とするに関する同意

- 認定農業者が委員の過半数を占めることができなかったため、例外適用の同意を求める。

◆大月町農業委員会委員の任命の同意

- 7名の任命について、議会の同意を求める。
内原英明 氏、森下 誠 氏、山岡大真 氏、山下清司 氏、田辺豊浩 氏、
平田師啓 氏、長岡敬造 氏
(議案提出順)

◆肥大化し過ぎた標準授業時数の削減を求める意見書について

【提出者：浦木秀雄】

ストレスを抱える子どもたちの不登校・いじめ・自死などは増加傾向が続き、教職員の病休や早期退職者の増加、大規模な教員不足など、教育現場は深刻な課題を抱えている。

様々な社会的要因により学習指導要領の内容が増え続け、現在は1日の授業時数が教育史上もっとも肥大である。

教員の労働環境は子どもたちの学習環境であること、そして子どもと教職員にかかる心身の負担を早急に軽減する必要があることを鑑み、下記の実施を強く求める。

1. 次期学習指導要領の改訂において、増え続けてきた標準授業時数を削減し、子どもにとっても、教職員にとっても無理のない、豊かな教育環境の実現を進めること。

谷 ・ 依岡 ・ 安岡 (利)
笹木 ・ 新谷 ・ 松田

反対

賛成

中田 ・ 米谷 ・ 浦木

時数削減では解決不能（谷正美）

週5日授業により教える量が詰め込まれ、教師も大変になっている。授業時数削減では解決できないと考える。また、時数削減は学力の低下が懸念される。文科省は審議会を経た答申を出す予定であり、それを鑑みた上での意見書でなければいけない。

社会全体で携わっていくべき（依岡一生）

文部科学省は教育課程のあり方について諮問している。また、教師を取り巻く環境整備特別部会が、学習指導要領や標準授業時数を含む緊急声明を政府に出している。現時点での意見書提出は妥当ではないと考える。授業時数削減で本当に豊かな教育ができるのか疑問。社会全体で携わることが重要。

地域・家庭・学校の連携で（安岡利治）

今の学習指導要領を含め、長い期間で築き上げられた教育行政がある。文部科学省も課題解決のために協議をしている。今の段階で授業時数だけの部分ではなく、地域・家庭・学校の連携で解決できるものもある。また、政府全体として取り組む中で、その打開策・解決策も出てくると考える。時間数での捉え方は疑問を感じる。

子どもに向き合う時間を（中田巖）

教員の労働環境は子どもたちの学習環境そのもの。「町に実態はない」「国でも議論しているから提出の必要はない」ではなく、標準授業時数や学習指導要領は町独自で変更できないため、現場に近い地方議会が国へ意志を届ける役割がある。多くの授業がより良い教育ではなく、本当に必要なことを深く学び、考える力を育み、子ども一人ひとりに向き合う時間を確保することこそ、教育の質を高めることに繋がる。標準授業時数の削減をしなければ、教育環境は改善されない。

自ら学ぶ時間に転換を（米谷勝市）

日本の義務教育は素晴らしいが、詰め込み教育には非常に疑問を感じている。基礎がないと何事も応用が利かない。自分の意見を言えないと感じる。どういう大人になりたいか、どういう仕事に就きたいか、なかなか考えづらい。授業時間を圧縮することで、自分たちで学び、育っていくような時間に転換できたら。

◆議会運営委員会

『議長諮問事項に対する答申の報告』

◇諮問事件の答申内容

①一年間の議員活動の集計

議員活動の集計については、令和7年1月1日より同年12月31日の年間の議員の活動を、統一した集計項目に振り分けて集計した。集計期間終了後、振り分け等の最終調整を行った。

この集計データは、今後の議員報酬・定数等の検討における資料として活用する。

②議会懇談会の企画開催

議会懇談会は、令和7年4月・5月・9月の3か月間にわたり、ご協力頂いた17地区において開催した。参加延べ人数は183人。テーマを「産業振興・防災」とし、それ以外についても幅広く意見を聴取した。聞き取った意見は全て検討し、各地区へ個別に回答を送付した。また、執行部と意見の全てを共有し、対応が必要なものについては個別に要請をした。

③通信ツールとしてのLINEの活用

LINEの活用については、委員会の開催通知や全体の連絡事項などに活用しており、非常に効果的で効率的ある。郵送料の節減もでき、ランニングコスト等も不要なため、今後も活用すべきものとする。

④決算審議の充実、当初予算への反映

「議会基本条例」で制定予定のため、議会のあり方検討特別委員会において議論を進めていくものとする。

みんなの広場

すね。

政も今に合った町づくりに取り組んで、若い世代の人たちが楽しめる町になったらいいですね。

しかし、子どもたちが成長し、高校、大学で大月を離れると、帰って来ません。人口は減る、学校統合、職場がなくなつて商店閉店。帰りたくても働くところがないから帰れない。今の人口4300人。我が家も、親を心配し娘2人が帰ってきてくれて美容室開店。人口減少で、やっていけるのか不安な日々でしたが、娘の育った町、たくさんの方々に支えられ、今に合ったやり方で頑張っています。行

41年前に大阪から大月へ家族4人で引っ越し理容店開店、不安もありましたが、人口8600人、生活環境が揃っていたのでほっとしました。



川村 真佐代さん(中央)と娘さんたち

帰りたいふるさとに

川村 真佐代さん(芝)

ジョン万 効果活用は？質問まとめ

質 問	執 行 部 の 答 弁	質問ページ
① 道の駅リニューアルの計画・進捗		
道の駅リニューアルの進捗とスケジュールは？	• 今年度 : 基本設計（プロポーザル準備中） • 令和9年度 : 実施設計 • 令和10年度 : 工事着工 • 完成予定	P. 11 P. 14
全体の事業費規模と財源の考えは？	• 概算で工事費約3億6千万円（国補助金活用を検討） • 資材高騰リスクあり、設計段階で精査	P. 11
物価高騰で計画が先送りにならないか？	• 上記スケジュール通り。延長は考えていない	P. 11
放送期間中に間に合わないのでは？	• 一過性の波に合わせるのではなく長期的整備を優先 • スケジュール変更の予定なし	P. 14
② 経済波及効果の認識と目標設定		
経済波及効果の認識と数値目標は？	• 宿泊・飲食・物販など多分野での効果を期待 • 詳細未確定のため現時点で数値目標設定は困難	P. 14
振興計画の観光数値を上方修正し、今から動くべきでは？	• 根拠なき計画変更は最上位計画として不適切 • 毎年度のローリングで実績を踏まえ検討 • 「遅い」との指摘は真摯に受け止め前向きに対応	P. 14
③ 広域連携と誘客戦略		
近隣市町村との連携と誘客策は？	• 幡多広域観光協議会を軸に周遊ルートを構築 • 土佐清水・大月・宿毛の道の駅3者が周遊キャンペーンを今年度開始予定 • 県「博覧会推進協議会（仮称）」とも連携	P. 12
柏島等への観光客の動線戦略は？	• 土佐清水市観光後に立ち寄れる推奨ルートを構築 • 体験型プログラムを造成し滞在時間延長・消費拡大を目指す	掲載なし (中田議員)
ジョン万資料館来館者に道の駅割引などの特典は？	• 広域周遊を促す特典の仕組みは有効な取り組みの一つ • 今後の市町村間協議の参考とする	掲載なし (新谷議員)
④ 民間連携と受け入れ体制		
飲食・宿泊業者は協議会に絡まないままか？	• ふれあい市内での飲食提供を公社内協議中 • 幡多広域で飲食・宿泊含め効果を享受できるよう取り組む	P. 14
なぜ民間への参加呼びかけをオープンにしないのか？	• 広く告知をしない特別な理由はない • 観光協会・商工会を通じ届くと考えていた • 今後は関係団体との協議の場を設ける	P. 14
リピーター獲得の組織・スケジュールは？	• 具体的スケジュールは未定 • 観光協会・商工会への意向調査を7～8月に実施予定 • 県も9月補正以降でジョン万予算を検討中	掲載なし (中田議員)
⑤ 観光施設の老朽化・整備		
観光施設の老朽化整備の計画は？	• 個別の劣化状況を精査し優先順位をつけて対応 • 大河ドラマ関連の補助事業も積極活用 • 大堂山トイレは早急に使用不可表示を対応	P. 10



新谷 伸 議員

消防・防災

広域化による影響は 消防力強化・財政負担増／町長



築50年の大月分署

問

大月町の消防、防災は幡多西部消防組合の大月分署と大月町消防団が町民の生命・身体及び財産を風水害、火災等から守ってくれている。今、県内15消防本部が2028年度統合に向けて協議を進めているが、大月町におけるメリット・デメリットは。

答

消防広域化の必要性ですが、人口減少が進んでいる現状、特に中山間地域の消防本部では、人材確保が非常に厳しくなっている状況です。広域化による本町のメリットは

問

大月分署は存続。人員・車両等の削減もない認識でよいのか。

答

消防広域化への協議では分署をなくすということではなく、人口減少になっても現状のまま維持していけるよう現場力を強化していくという考えのもとで協議を進めています。

問

第7次大月町総合振興計画後期基本計画で築50年の大月分署の建て替えを検討しているがスケジュールは。

答

詳細なスケジュールはできていないのが現状です。ただ他にも除却や建て替えが必要な施設が複数あり、財政面を考慮し、緊急性・重要度に応じた優先順位をつけて検討していきたいと考えています。また、大月分署の建物は幡多西部消防組合の所有ですが、建て替えに要する費用は、町負担になります。大月分署・消防本部・町で協議を行い、スケジュールの明確化をしていかなければならないところです。

観光

どのような整備計画か

効率的に努めたい／町長

問

トイレ・展望台など観光客が立ち寄る公共施設・公共空間の環境整備に努めますとあるが、対象施設が多く、予算的な部分もありすべてを行くことは難しいと考える。大堂展望台手前の使用不能になっているトイレなど、どのような整備計画を立てているのか、予定は。

答

観光客の受け入れ施設となる公共施設や観光拠点の環境整備は、観光振興において重要な課題であると認識しています。安から早期の対応が必要であると考え、計画的かつ効率的な整備に努めています。



使用不能のトイレ



安岡 利治 議員

産業振興・観光拠点

道の駅リニューアル基本計画は 本年度中に基本設計策定／町長

問 基本設計決定後の具体的なスケジュールは。

答 一階部分は売店、直販所等をふれあいセンター部分に増築してワンフロアとし、イートインコーナーを設け食事も提供できるようにします。二階部分は、図書館機能を付帯させる方向です。これを曲げることなく基本設計の策定を進める考えです。

問 令和7年度の検討委員会の方向性は。

答 現時点での計画では、本年度基本設計業務を行い、令和9年度に実施設計業務、令和10年度に工事着工・完成を予定しています。



新たな観光拠点

問 事業費や財源等の見通しは。

答 令和7年度時点の概算で、工事費約3億6千万円を想定していますが、建設資材や人件費の上昇等で、現段階で確定は難しいです。財源は国の補助事業等を精査し、活用を検討していきたいと考えています。

問 新しい気象情報体系が、本年5月より運用開始された。この運用を、どの様に考えているか。

答 制度を周知し、情報収集、判断、避難情報発令、住民周知、避難支援等の業務を進めます。情報はこれまでに比べ大変分かりやすく、発令等や避難所開設の判断に活用していきます。

防災対策

新たな防災気象情報 発令等に活用／町長

学校制度

チーム担任制は 大変良い制度／教育長

大変良い制度／教育長

問 本年度より県教育委員会が、県下10校の小学校で実践研究を行っている、チーム担任制の導入についてはどのように考えるか。

答 人手不足の現場において大変良い事であり、子どもを複数で見、教員の負担を分散するための仕組み

問 小中一貫校への移行の考えは。

答 保小中連携教育を推進し、9年間の教育課程の編成を行っていますので、現在の形でよいと考えます。



更なる学校教育の充実

将来の大月像

持続可能な地域維持戦略を 維持と集約を明確化／町長



中野 蔵 議員



持続可能なまちづくり

問

10年後20年後の人口規模を想定し、必要サービス、公共施設、地域拠点を整理した将来ビジョンを作成し、人口が減少しても暮らしを維持できる地域の将来像を町として明確に示すべきでは。

答

将来ビジョンの策定は、10年後を見据え、変化する社会への対応を図りながら、縮む町ではなく質の高い町へと再編していく必要があります。維持すべき機能と集約すべき機能を明確化し、それらを持続可能な将来像として描き出し、大月町まち・ひと・しごと総

合戦略へ反映させ、実効性のある施策を進めていきます。

問

今後、通院や買い物に困る住民が増加すると想定できるが、地域公共交通や移動支援をどのように維持・確保していく考えか。

答

本年度より国土交通省の補助事業である交通空白解消等リデザイン全面展開プロジェクトを活用し、持続可能な地域公共交通のあり方を検討。安定した移動手段の確保と地域活力の維持・向上に取り組んでいきます。

新規就農者支援

50代60代も対象に

国や県に要望する／町長

問

一次産業の担い手不足は若年層中心の発想だけでは限界があり、50代・60代も含めた人材確保が必要ではないか。

答

若年層のみならず、50代60代を含めた幅広い世代の人員、人材確保は本町の一次産業の維持において重要であると認識しています。人生100年時代を見据え、多様な経験を持つ方々の参入を促進することで、一次産業の裾野を広げることが重要であると考えています。

問

企業等の定年延を踏まえると、研修制度等の年齢要件は現状に合わなくなりつつあるが、どう考えるか。

答

社会全体の就業環境は大きく変化しており、現在の研修制度における年齢要件が社会の実態や就業意欲を持つ方々の状況と少しずつつ離れつつあると認識しています。

問

国・県の制度だけでは補えない部分について、町独自の支援や国・県への制度見直し要望を行うべきでは。

答

本町の財政状況を鑑みますと、町独自の効果的な支援制度を創設することは現時点では困難であります。国や県に現実状を、国や県に對し制度の見直しや柔軟な運用がなされるよう積極的に要望してまいります。



即戦力として期待



浦木 秀雄 議員

町政運営

非核平和大月町宣言の取り組みを 平和の大切さ学ぶ機会を提供／町長

問

町長の平和首長
会議参加状況、町

す。の尊さや平和の大切さを学ぶ機会を提供していきたくと考えています。

答

黙祷や追悼式の実施。平和の折鶴を作成し、土佐くろしお鉄道宿毛駅に展示。

問

非核平和大月町宣言や平和首長会議加盟を踏まえた平和行政の具体的取り組みは。



平和の折鶴づくり

民への平和啓発の考えは。

答

平和首長会議には公務の都合で参加できていませんが、情報を活用し町民の皆様に平和の尊さを伝えていく取り組みを継続していきます。

問

行政による平和情報発信の強化は。

答

教育委員会と連携しながら、学校教育、日常の教育活動における指導の充実、できることから始める情報発信による周知と意識の向上、町民生活の安全で安心な地域づくりの推進に努めていきます。

危機管理

管理職不在は重大な規範逸脱

規範逸脱はあろうか

と思う／町長

問

マニュアルでは初動の中心は危機管理室（課長・補佐）であり、町長・副町長では代替できない構造。課長はエンジンであり、町長は最終判断者ではないか。

答

条例上の指揮系統は町長であり矛盾しない。しかし、議員のおっしゃることは正しい。参集できない場合は係長以下で対応します。

問

マニュアルは行政の公式規範であり、管理職不在は重大な規範逸脱ではないか。

答

規範的な逸脱は当然あろうかと思

います。しかし人事見直しは考えていません。

問

大月町の長期避難所トイレ備蓄の現状は。

答

簡易トイレ等2万3200回分。地下埋設型・トイレカ1等7万7856回分。合計10万1056回分（想定131%）。ただし、指定避難所単位では不十分と認識しています。

問

避難所のトイレ不足が災害関連死の主要因であることを認識しているか。

答

トイレ不足により、トイレを我慢することも災害関連死の一因であると十分認識しています。

問

スフィア基準をもとに進めていくのか。

答

スフィア基準は20人あたりトイレ1基を推奨。女性用と男性用の比率は3対1が目安。トイレの平均的な使用回数は1日5回。順次計画していきたいと考えています。



総務課・危機管理室

産業振興

大河ドラマに向けた道の駅整備は スケジュールの変更はない／町長



米谷 勝市 議員



ジョン万次郎資料館

問 大河ドラマ龍馬伝の経済波及効果は最終535億円。観光拠点である道の駅リニールが令和10年末に完成予定で、大月町に誘客する事ができるのか。計画修正の余地はあるのか。

答 一過性の波に合わせるのではなく、長期的かつ持続可能な価値を創出する、着実に質の高い整備を考えています。

問 大河ドラマ放映中に仮設店舗の道の駅で、果たして満足させる事ができるのか。龍馬伝での観光客の消費額内訳は飲食101億円・交通65億円・宿

泊52億円・土産物49億円。今回の舞台が土佐清水市で、この効果を大月町はどう取り込むのか。

答 宿毛・大月・土佐清水の道の駅・観光協会・行政担当などで協議会を立ち上げ、周遊キャンペーンを実施する予定です。

問 飲食・宿泊事業者が一切参加していないまま進めるのか。

答 飲食は道の駅内公社内でも協議をしています。

問 経営規模の大小やイベント中心の無店舗営業者、これか

ら起業を考えている方などに対し、組織立ち上げの呼び掛けをなぜオープンにしないのか。

答 理由というものは特段存在しません。商工会・観光協会等それぞれが通じて情報が流れていけばと考えています。

問 後期振興計画を上方修正する考えは

答 直ちに修正する予定はありませんが、数値目標にとらわれず受入体制の構築等に注力しています。

問 計画・予算組み・実行をしない消極的な市町村と連携していかうとなるのか。

答 動きが遅いという指摘を真摯に受け止め、前向きにしっかりと進めていきたいと考えています。



多くの人達と繋がるSNS

交流人口
定住がイノベーション
真に貢献頂ける人材を／町長

問 協力隊のSNS活用頻度が年々少なくなり、ここ数ヶ月では稼働していない。どのような指示をしているのか。

答 近年は隊員の自主性に依存する形の運用となっており、活動PR・隊員募集にも役立つものと認識し、目的・効果を隊員と担当で共有しながら積極的な活用ができるよう取り組んでいます。

問 協力隊に求めているのは、3年後の定住か、大月町に今ない風を吹かせてくれるような存在か。

答 両方が目的です。協力隊制度を単なる人口増加のみを目的とせず、隊員が持つ新しい発想やスキルが地域に還元され、新たな価値が生まれること、そして結果として定住に繋がるという好循環を目指します。



松田 照代 議員

耕作放棄地

町版農地バンクの創設を まずは農業委員と検討／町長

問 高齢化や後継者不足により耕作放棄地や遊休農地が増えている。この現状をどのように認識しているか。

答 様々な課題が重なり、本町の農業を取り巻く環境は非常に危機的な状況にあると認識しています。この状況を放置すれば地域の活力そのものが失われるという危機感を強く持っており、遊休農地・耕作放棄地の解消は本町の持続可能な産業振興において喫緊の課題と重く受け止めています。

問 小規模農地等に対応できる町版農地バンクの創設を提案する。町長の見解は。

答 より細かなニーズに対応できるため、検討の余地があると考えています。しかし、賃貸借契約に進む際には農地法に基づく許可申請や農地中間管理機構を通じた手続きが必要のため、あくまでマッチングを支援する情報提供の場と位置付ける必要があると考えています。また、取り組みの推進に努めていきます。

問 将来の活用を見据え、耕作放棄地の再生を国県補助を活用して進める考えはあるか。

答 遊休農地の解消には農地の再生整備が不可欠です。現在も整備支援に係る補助制度がありますが、10年以上の貸付が必要等の要件があります。町版農地バンクの検討と並行して、町の実質負担を抑えながら農地再生の取り組みが進められるよう、各種補助制度の活用促進に努めていきます。

問 庁舎内に職員休憩室がない。昼休憩を自席や車内で行っているが、現状をどう認識しているか。

答 自由とはいえず、不自由な思いをしている職員もいるかと考えられます。新設は難しいので、空き会議室の昼休憩利用について周知をしていきます。また、体調不良時の休養室はベッド等の設備や利用ルールが必要のため、今後の検討とさせていただきます。



再生可能な遊休農地

みの推進体制においては、地域の実情に精通した農業委員の皆さんに中心的な役割を担っていただくことが必要不可欠なため、まずは協議検討の場を設けていきたいと考えます。

労働環境改善

一時休憩室の確保は

空室の活用周知／町長



空き時間の会議室

問 利用頻度の低い会議室を、昼休憩時のみ解放したり、職員が体調不良時に休める休養室として確保できないか。

答 自席・車内休憩や外出など様々であると認識しています。

問 昼休憩は個々の自由とはいえず、不自由な思いをしている職員もいるかと考えられます。新設は難しいので、空き会議室の昼休憩利用について周知をしていきます。また、体調不良時の休養室はベッド等の設備や利用ルールが必要のため、今後の検討とさせていただきます。

光彩煌めく部屋と猫



しおたに ゆき
塩谷 由紀さん 弘見(郷)

地元を思いながら

小、中学校は地元
の学校を出て、隣町
の高校生活を過ごし
たあと、自分の好き
なデザイナー関係の
専門学校に入り、い
ろんな経験を経て、
ゲーム会社に就職し
ました。この会社では、
当時流行ったスーパ
ーファミコン、ゲー
ムボーイの企画、絵
などを担当していま
した。自分が育った
田舎を思い出しなが
ら楽しい日々を送っ
ていました。

出会い、そして…

会社勤めをするなか、
私はヘビメタが好き
でよく見に行ってい
ました。ヘビメタの
バンドの一人、今の
夫と出会い結婚しま
した。その後、夫の
住む三田(さんだ)市

(兵庫県)に移り住み
夫と共に暮らしてい
ました。阪神・淡路
大震災が起こり、そ
んな中でも「家を建
てたい」との希望を
抱き、三田市から丹
波篠山市に移り住み
ました。何もないま
まのスタートでした。

友達との出会い、 転機

丹波篠山市では車
関係のアルバイトで
チラシのデザイン等
を担当していました。
そんな時、ステンド
グラスと出合い教室

で教わるようになり
ました。本当に楽し
い日々でした。しか
し夫の転職のタイミ
ングの時、夫が森林
の仕事がしてみたい
と言いました。それな
ら「私の実家の方が
いいんじゃない」と、

夫と共に2023年
8月に実家(弘見)
に帰って来ることに
なりました。実家の
片付けをしながら、
2025年に、もと
もと好きだったステ
ンドグラスの店をオ
ープンすることにこ
ぎつけました。材料
費が高いとわかって
いても、作るのが好
きなので始めました。
今ではステンドグラ
ス体験も開いています。
今後は猫と夫とゆっ
くり暮らしたいと語
っていました。

(取材：依岡一生)

表紙写真は塩谷さん
の作品です。

まちなかのひと
こんにちは

編集後記

私の住んでいる地区は
昭和35年頃、およそ44
0人の笑顔がありました。
今は89人です。80%の人
が地区からいなくなりま
した。死亡と、都会流出
です。

草刈作業ができる人は
30人程度。隣の地区はこ
れより大幅に少人数です。
地区維持・祭り・鳥獣対
策もできなくなってきました。
全地区でこのよう
な事態になっています。
行政・議会も本気の取
り組みが求められます。

(笹本章弘)

編集委員

委員長	浦木 秀雄
副委員長	依岡 一生
委員	米谷 勝市
	笹木 章弘
	松田 照代

発行／高知県大月町議会
編集／議会広報常任委員会

高知県幡多郡大月町弘見2230
TEL(0880)73・1682

印刷
有限会社 宿毛印刷